



# 150人のワクワクを乗せて、いざ出航！

## ～クルーズ船「銀河」体験乗船会～



『船と港の役割を学ぼう！』と題した、クルーズ船「銀河」体験乗船会を、11月20日(火)、廿日市市立佐方小学校の5・6年生を対象として開催しました。クルーズ船「銀河」は広島港から宮島にかけて瀬戸内海を周遊する旅客船です。

今回の銀河乗船は、子どもたちに海への親しみや船に乗る楽しさを知ってもらい、また、パネル学習、救命胴衣着用体験、ブリッジ見学等の楽しい学習時間を通して、海・船への関心をもってもらえるよう、中国海事広報協会・中国地区内航船員対策協議会・中国運輸局が協力し企画実施しました。



総勢150名の児童が、クラスごとに乗船前の記念撮影を終えると、今度は船内での昼食。ゆっくりと変わっていく船からの景色を眺めながらお弁当を食べて、船内スタッフの話にも夢中な様子でした。

スタッフからの、瀬戸内海大きい島ランキングのクイズでは、「宮古島！」というほほえましい珍解答も飛び出していました。(ちなみに答えは大きい順に①淡路島②小豆島③周防大島)

自由時間はデッキに出たり、船内を探索してみたりと、席に座っている児童はだれもおらず、好奇心いっぱいの子どものエネルギーに圧倒されっぱなしでした。



午後からのパネル学習では、運輸局職員が講師となって、自前のパネルを用いながら、船が私たちの生活にどれだけ深く関わっているのかを身近に感じてもらえるよう、クイズ形式の学習を行いました。貿易での海上輸送の依存度の高さなどに、「わーっ！」と驚きの声上がるなど深く関心をもってもらうことができました。

救命胴衣の着用体験については、船に備え付けの固定式と、運輸局から持参した膨張式の2種類を用意し、じゃんけんで選ばれた児童に着用してもらいましたが、膨張式については、手で実際に膨らませてみせたところ、一瞬で膨らむ様子にみな驚き、また、救命胴衣の重要性を実感してもらえたようです。

中国運輸局海事振興部は今後も、子どもたちが海や船を身近に感じてもらえるよう、関係者と連携して取り組んでいきます。

※C to Seaプロジェクトとは、ポータルサイト「海ココ」 <https://c2sea.jp/>